

報告その①

幻想的な灯りに照らされた2日間

「たけはら憧憬の路」



10月29日と30日、町並み保存地区一帯で、「町並み竹灯り～たけはら憧憬の路～」が開催されました。歴史文化薫る町並みが、竹灯りに照らされ、市内外からの来場者をあたたかく迎えました。

今年の憧憬の路は、1週間前から、雨の予報。竹灯りの製作に参加する地域住民のみなさんからは、

「なんとか一日だけでも開催したいのお。」という声が上がっていました。

10月29日当日、暗くなるにつれて雨が弱まり、憧憬の路の開催が決定。みなさん安堵の表情で、開催準備にとりかかりました。

17時。点灯式が始まり、町並み保存地区一帯の竹筒に火が灯されると、来場者も徐々に増えていきました。

来場者からは、「ろうそくの灯りがあたたかい感じがする。本当にきれい。」「竹原っていいところなんじゃね。」「雨で、通りがキラキラしてるのがいいね。」といったうれしい声がかれました。

30日も、雨が降ったり止んだりの天気でしたが、雨にも負けず、火を灯し続ける地域のみなさんの力で、無事、開催されました。

終了後、竹灯りを展示していた参加者からの「なんとか、天気がもったわ〜」という言葉と笑顔が印象的な憧憬の路となりました。



照蓮寺では、竹原第3地区協働のまちづくりネットワークが、規模を拡大して、作品を展示。



踊りと音楽も、欠かせません。三味線の音色が、町並みを彩りました。



夫婦や恋人が、並んでゆっくりと町並みを歩く姿も多く見られました。



子どもたちもお手伝い。美しい灯りは、子どもたちの目にどのように写ったのでしょうか。



ボランティアの力で支えられている竹切り作業。地域の力で、開催されています。



今年度は、趣向を凝らした作品が多数見られ、それぞれの個性が表れたものとなりました。

# アニメの世界に染まった2日間

## 「たまゆらの日」



11月19日と20日、市内で、竹原市を舞台としたアニメ「たまゆら」のイベント「たまゆらの日 2011～おかえりなさい、あたたかな町へ～」が開催されました。当日は、監督や声優のみなさんによるトークショーなど各種イベントで盛り上がりました。

11月19・20日、市内は、約5,000人も「たまゆら」ファンであふれました。

ファンの多くは、若い男性。アニメの場面に登場する場所を探索するほか、イベントに参加したり、ファン同士で交流したりと、それぞれの楽しみ方で2日間を過ごしていました。

「実際に竹原に来てみて、良い所だと思いました。また来たいですね。」と話すのは、大阪から来たファン。また、イベントには市民の姿もありました。市内在住の親子は、「娘が好きで、去年もイベントに参加しました。自分のまちが描かれてうれしい。」と喜んでいました。みなさん、ぜひテレビ新広島などで放送中の「たまゆら」をご覧ください。改めて竹原の魅力を知るきっかけになるかもしれません。

佐藤 順一 監督から、市民のみなさんにメッセージをいただきました



昨年、憧憬の路に来たとき、ちょうど雨上がりだったんです。濡れた石畳に、竹灯りが照らされるのが本当に幻想的で、写真をたくさん撮ってスタッフに見せました。みんな、「おお～」って感じでしたよ。そういった経験が、第7話のストーリーにつながりました。

竹原に来るのは、今回で7回目。初めて来た時、駅前の「おかえりなさい」の文字がすごく印象的でした。町並み保存地区には、生活している人が多くいると知って、ここを舞台にしようと心に決めました。来る回数を重ねるごとに、気づくことがたくさんあります。

周りの人の協力をいただいて、たまゆらの日を盛り上げることができました。竹原のみなさんに、本当に感謝しています。



あいふる 316 に設置された登場キャラクター「ももねこ様」の石像。声優のみなさんも「かわいい～」となでていました。



市内にスタンプラリーのポイントが設置され、多くのファンがポイントを探す姿も。



「たまゆら」タオルに身を包む男性。一目で「たまゆら」のファンと分かりますね。



グッズ販売には長蛇の列。主人公が住んでいた横須賀市からの出張販売もありました。